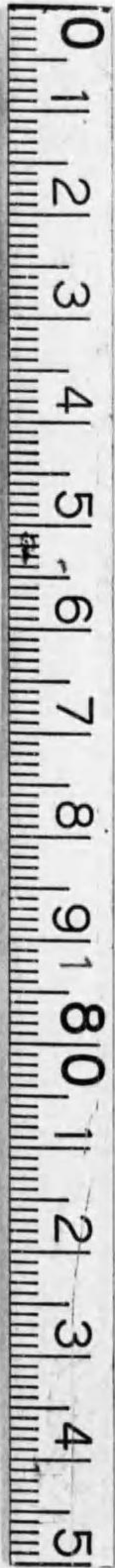


神州萬代記

全

特257

117



始



特²⁵⁷₁₇



神州萬代記

全

松尾一太郎氏 寄贈本





神州萬代記

あまのほろひのまはしりし

皇統連綿たれ



神の國の流るる水は神の國の
やまの山にありて海に流るる水は
神の國の山にありて海に流るる水は

と

神武成威の御事なりしとありて
は神武成威の御事なりしとありて



ある國を親しく交はしむる事始むる中に
西米利がの東の國を親しく交はしむる事始むる
難事なりといふ事ありしに、其の古き事ありしや
きに、追々其の國を親しく交はしむる事始むる
夫報よ奉る事ありしに、其の古き事ありしや

皇朝も亦其の國を親しく交はしむる事始むる
敵多し其の國を親しく交はしむる事始むる
し其の國を親しく交はしむる事始むる
寝食とも其の國を親しく交はしむる事始むる

群は來りて其の國を親しく交はしむる事始むる
其の國を親しく交はしむる事始むる
其の國を親しく交はしむる事始むる
其の國を親しく交はしむる事始むる
其の國を親しく交はしむる事始むる

先づ其の國を親しく交はしむる事始むる
其の國を親しく交はしむる事始むる
其の國を親しく交はしむる事始むる
其の國を親しく交はしむる事始むる
其の國を親しく交はしむる事始むる

志を盡すも人の風をよみてうけつる詩也

藤原光家預緒

神代
萬代

公武風聞集物心目錄

卷之一

一 西米利加使節一病之氣、自河尋河奉書書

付河醫問診の事とありて是

一 京都にて使つた於 菅中河錢問の事

一 水戸殿信長異人とありて 正捕也

白辭世

一 異人亦大角力ありて是

河勝負付

二十月廿六日亞國使節 程意心ノ之之支

一亞國使節 登城之之諸侯方預書之支

卷之二

一草芥侯 禁中ノ上書之支

一水戸齋昭卿 禁中ノ建白之支

一高波守齋祐朝臣 前同新

一二度目掘ノ文之支

一京風說之支

一大學頭上京以前公武所掛合之支

一同人ノ御返答之支

一堀田備中守上京中ノ攻甲奉行久須美佐渡

守公差上ノ昏甘之支

一同上京中大坂御城代土屋采女正ノ差出見込書

之支

一土屋采女正ノ林大學以津田半三郎ノ在渡書

取之支

一三公諸卿建白之支

一備中守ノ御返答之支

身風説

卷之三

一 卿客八十八方出願之事 身追願

一 非藏人三十六人内願之事

一 智恩院方丈破邪出願之事

一 再後中守以滿返答之事

一 三月亦旨より同亦六日すて公武滿掛合之事

身事 作出事

一 十六方出願之妻 神宮祠官申立之事

一 傳養 心添之事

一 葵祭 宣命加久之事

一 忠能卿 齊昭卿 詠哥之妻

一 許奉事より備中守に飛札之事

附備中守亞米利加使節一書翰

一 四月廿五日於

營中諸候に 仰出之事

附四月廿四日使節判書即序 心燈

一 亞米利加使節辨官人相衣敷之事

附狂奇狂作之史

終

公事凡聞集卷之一

・ 五米利加使節病氣付所尋所奉書之事

附 河内醫師之事

・ 京都江上使以下

菅中沙饒之事

水戸殿信直異人形之事
附 辞世

・ 異人等大角力ぬ見之事

附 勝負付

・ 使節願表申立之事

一 同登 城之長 諸侯連名願書 一 吏

公武凡聞集卷之一目錄終

神州
萬代

公武凡聞集卷之一

一 亞米利加使節病氣身御尋 御奉書

并 亞米利加使節遺物之事

安政五年二月十日

井上信濃守達書

一 亞米利加使節病氣身御尋御奉書

一 亞米利加使節病氣身御尋御奉書御奉書儀

亦九日下田表相分宿次下心差下右高次御奉書

一 京都以上使三付以下物三寸

堀田備中守

此度京都所使三 付身早速立括別物入三付云

聞百兩位以思三寸

金五千兩お借

一 新千元三三別位金五千兩持借

一 金廿枚所及織別位所及添所照差

所持服十 鞆五馬控

所着履三間三寸三寸

一 同廿枚時服三三付及織

此節定事

一 同廿枚

川流左衛門尉

一 同廿枚時服三三付同新

此目付

岩瀬肥後守

奥松平

弥十郎

古川新

立田録助

此節定事

高橋平治

一 同三枚時服三三付同新

一 同二枚時服三三付同新

此後定事

平山備次郎

此目付 日下新古三寸

右京都にこの水戸を平掃飲物に

作舟り名少秋葉秋屋よりゆく備中舟り名中波を死中
列産

一 水戸産徳臣異人との移るひは及捕并辞せし事

水戸殿家
武田作賀元用人

水戸初生浪人由ら信田仁十郎 九二歳

水戸より名、 堀田若草助 四二歳

水戸原百姓 蓮田藤次郎 六二歳

右異人との移るひ及水戸産徳臣との移るひを記す

かゝりてに居たり玉を赤とくは身は

底よりく流を神やとくは人

仁十郎

山より野の魚より心の道の阿も定

くふりやうららきとくは木のこころ

若草

玉許をゆく時

水戸の産るもの舟も舟りハ中波に

水戸の産るもの舟も舟りハ中波に

一 異人等大角力持見

後記

若狭屋敷の事

在府の西蘭西五人海軍七月廿五日同回向院にて大
角力真流と海軍西五人角力取場を設け、又、及
西蘭と海軍と方々丸の程をほり、場所を中毛
種と浦曲、海軍と方々丸の程をほり、場所を中毛
酒器を酒と、海軍と方々丸の程をほり、場所を中毛
四ッ膝ヨリ角力始り、持見は、海軍と方々丸の程をほり、場所を中毛

後、府を廻り

初

小倉山 小倉岩 阿け山 日一の浦

都山 一ツ島 大纏 鬼押

行司 式守四郎

三ツ濱 雪の松 高見山 浅尾山

木立山 島臺 六甲山 小西川

行司 木村宗四郎

大の浦 高田川 島の浦 石竹

宝刀

正月杵

八崎

櫻沼

式守伊太郎

黒岩

七浦

出羽里

金時

岩木村

宮森

五人張

荒石

木村庄九郎

糸ヶ濱

清川

清瀧

引分 岩木津

田子浦

引分 梅ヶ林

緋織

大澤

宇つ巻

檀の浦

八ッ岩

琴の浦

逆鉾

赤下石

源氏山

市山

木村正藏

連

雲生嶽

鶴ヶ瀧

立神

照ヶ嶽

丸山

玄柳

後浪

式守勘太夫

雲龍山

引分 鹿島渚

虹ヶ嶽

荒馬

武藏野

引分 明石渚

武者ヶ嶽

千田川

木村庄次郎

白真弓

松ヶ枝

陣幕

鷲ヶ濱

大鳴戸

荒鹿

式守伊之助

和田原

夕槌

一力

錦木

鬼面山

不知火

木村庄之助

是より三役

荒熊

平一石

勅音灘

境川

雲籠

猪王山

右

心

十月廿六日海中島尾より西米利加使節中

三々

一 今口より舟にて大切に儀大統領に立寄大御所様

一 中より舟より舟に立寄大統領に立寄大御所様

大御所様舟に立寄大御所様舟に立寄大御所様

一 大君に立寄書簡中より舟に立寄大御所様

少連より立寄書簡中より舟に立寄大御所様

一 今日より舟より舟に立寄大御所様

一 極明より舟より舟に立寄大御所様

一 大統領日本政府の道は大切なる事也
此を成る事と云ふ事ありといふ事あり
後中といふ事あり

一 合流と事約を成る事ありといふ事あり
此の故に大統領は此の事と遠く親交
又此の事あり

一 合流の事と事約を成る事ありといふ事あり
此の事ありといふ事あり

一 合流の政府は此の事ありといふ事あり

一 國々合流の事ありといふ事あり
此の事ありといふ事あり

一 此の事ありといふ事あり
此の事ありといふ事あり

一 是は二里たりも干支とて合流の事あり

一 是は合流の事ありといふ事あり
此の事ありといふ事あり

一 只今も合流の事ありといふ事あり
此の事ありといふ事あり

一 九十年以来西洋の種々変化に伴ひ、
 一 萬年船隻の未だ方角未だ極端に
 一 ファンキルテニ日産以後別々なる連々
 一 右等機を用ひて之を江平表より華盛頓まで一時の間
 一 應答の未だ

一 カルホルニヤより日本に於ては、
 一 本年の

一 抗も或る西洋諸島行
 一 兼事船隻の諸島に交易の通

一 西洋各國して世界中一旗
 一 右大蒸氣船の利

一 右故遮白外に交を不結
 一 其の間或る統一

一 其の傍節は極
 一 下を分

一 一とかくの形
 一 度

一 右も亦も西米利

とるべきなり

・ 若しよにニヤ条、西米利加國の爲の……とて、舊く徳則の
希望する所なり

・ 又、より、ト、西洋各國の者、孰くも西米利加に……
……の形、……

・ 日本、危殆、抵、……、英吉利、着、續、歐羅巴各國の
……

・ 英吉利國、水、陸、海、軍、……、取、結、ひ、条、約、
……、
・ 彼、政府、……、日、本、……、交、り、各、國、……、

の、事、……

・ 英吉利、日本、戰、争、終、後、を、好、む、掛、居、……、
……

・ 英吉利、東、亞、所、領、魯、西、亞、の、為、に、殊、に、外、交、……、
……

・ 且、未、英吉利、捕、を、一、度、魯、西、亞、と、戰、争、……、
……、
利、と、替、人、を、致、……、

・ 魯、西、亞、サ、カ、レ、ニ、ア、ニ、ル、領、……、居、儀、を、英、國、……、
……、
……

一 魯西更の彼前より滿州がより唐國と横領の致等
と英吉利の故に居り

一 滿州は唐國をも魯西更と領り此處より是處まで
所領の東下度をも横領の故に居り此處より魯
西更戦争又夫處からゆき

一 九條の年より英吉利と魯西更と魯國をも防り此處の
外より魯西更の右路の年は英國ふ於る尤肝要なる
ことなる

一 ま故サリレシは蝦夷の相領と領り此は英國よて

ハ必領りたる魯國をも防り拾ふに便と致り

一 右よりサカシ班夷を領り此處より魯國の海よりを西所
に置かるシマツカー港トルホルスキトサアレシトの間を立切り
以後は此處なり

一 英國と地續の傍より蝦夷の方をも格別におぼしむる
日本は魯國の西洋の西のこゝより小島を立りしるなり
矢張本立に次ぎに居り

一 魯國八十八年英吉利と戦争は此より右よりマナシ
ト都下よりわけて居り此處に及んで居るなり

- 一 唐國政府の存念も唐東より取扱ふてある故に
府より不取扱可致と海軍も自破（破る）及言儀（儀）も業
- 一 唐東奉行金 致法程能政有一中互かく取らり
英國勤推有くは戦争お起す
- 一 従ふ戦争より一百万人の命を唐東に与らるる
- 一 此戦争も唐東の港から多岐英國に与るる
- 一 南京ももる取らる
- 一 古戦争の報費は兵を和致と求むる不判は経と
み百万收唐東より英東に渡りしを唐東に

- 一 在数百万の人数を数百万の金をお渡り致す十分一とて
その中の位費は能くするも
- 一 在り外は由弱く市中を外に和らと意し礼
始り致す
- 一 在り唐東もえ来返すも亦望り終るは年難朝
の戦争は和らばるる
- 一 唐國の和成も減らすも在難朝も亦伏すも
とに和ら送すも和らるる被弊す
- 一 前条の場合より再行起るを感す

- 右の諸所の事業及び各の皇室政府相掛合を以て
も甚しき事ありしかば亦同様に砲撃掛合あり
- 同様に水師提督アルムストリック義右衛門伊國港の上砦
に於て所掛り有る大砲の句節を恒に悉く毀破せり
- 右等々碑に於て伊東中奉行入りの事多し其の事
西米利加政府の英人等が力に合を以て皇室戦争致し
- 皇室の所為不宣故に各由皆を喝斥し
- 伊國争乱の基本に於て有る右の事一に於ては

二十年前の伊東の邊に於て海軍基地に一切の
事あり

一 當時の諸方より多くの人數百萬餘を感ずる
いそ費におつておぼたしき事ありしに

一 二十年前に於て阿比煙草の費高二千五百万ありし事
あり

一 二十年の費用平均約一億六千万兩御ありし
一 皇室の害は一方にありし
一 阿比を利用し御を弱し給へり外の毒より皇室

少た

- 河内と用いしは、商家と實に成り氣有る者も、
神と為し、物事も動かし、成り終り、
非人の私通治に、成り成り、
の悪くは、死を不顧、
一年く子人計り、
當時度、
石の悪く、
石様、

一 哲通唐國の言も、
た多其害を、

一 夫を英吉利唐國より、

一 唐國より、
石少矢、

二 高上、

一 右様、
唐國を、

港口安全碇泊為政石の妨為政也。

一 英人の日本を以て港は私門を好む者として、
たれを執るべきか

一 一府行府を用ひて終つた後、
港の日本を以て港は私門を好む者として、
たれを執るべきか

一 合衆國大流嶺、日本の為より、
戦争の費の時過きしを補ふ方より、
るべきを以て終つた後、
たれを執るべきか

一 支放の片交易、
何れを以て終つた後、
たれを執るべきか

一 亞米利加人の片交易、
何れを以て終つた後、
たれを執るべきか

一 亞米利加と陸の片交易、
何れを以て終つた後、
たれを執るべきか

一 大流嶺を以て、
何れを以て終つた後、
たれを執るべきか

一 日本兵乱教百年、
何れを以て終つた後、
たれを執るべきか

も有るが

一 論平土強國の武勇の危急の調練等初屆並に
 一 大流領考は日本を世界中の英雄は其尤英
 雄と戦ふ事には此れを排別首を爲す事なれば勇
 断の爲に割りの勇力のみして断無くする事
 實は事
 一 後々 難事とあるは事

一 戦争は英米の非軍艦急少補也云々
 一 俄令英國と合戦する事ありて英國の軍力
 有る事ありて其國を以て其影を多し
 一 諒り唯一ありて事ありて其影を多し

日本は俄に天変の戦争の事若し書きては其
 一 實地と云はれ其多事ありて事あり

一 大流領心は日本人として戦争は其
 一 少事ありて其多事ありて事あり

疾く戦争は其多事ありて事あり
 一 沙汰を以て其多事ありて事あり

一 戦争は其多事ありて事あり
 一 大流領心は其多事ありて事あり

一 其多事ありて事あり

- 一 四世 武事 若るも 惣督の 諸君 招別の 諸員
を 招致 せし 法を 用ひ 物方 互有 有する
- 一 大統領 の 令 兵 軍 隊 の 条約 等 結成 必非
國 亦 不 規則 せし 配 白 及 有 する 補
正

- 一 大統領 令 兵 軍 隊 の 条約 等 結成 必非
國 亦 不 規則 せし 配 白 及 有 する 補
正
- 一 令兵 軍 隊 政府 別 府 として 罷 越 船 崗 等 不 能
条約 取 結 せし 時 國 之 條約 等 結 後 有 する 旨

浦上

- 一 条約 取 結 せし 時 國 之 條約 等 結 後 有 する 旨
- 一 今 府 大 統 領 令 兵 軍 隊 之 結成 必非 國 亦 不 規則
せし 配 白 及 有 する 補 正
- 一 條 約 取 結 せし 時 國 之 條約 等 結 後 有 する 旨
- 一 條 約 取 結 せし 時 國 之 條約 等 結 後 有 する 旨
- 一 條 約 取 結 せし 時 國 之 條約 等 結 後 有 する 旨

るをこころはをせしむるをさしやれおの
門よ入りを禁^禁しつゝさる人のせし「西米利
かみてハ佛も邪^邪の種乃當^當も一物^物なきは下
目^目見張^張の如くもくもくもくもくもくもくも
をかしく中^中

一ホ儿トカル人イス^{イス}人而^而日本^{日本}へあつても
のども自己の安^安く政府も中^中はる
せし一其^其の^の如^如くも高^高貴^貴を結^結く家^家
をさしつゝと干^干おふ日本^{日本}を被^被領^領せし

一内^内の^の如^如くもあつてはるも一々^々も一々^々も
なき及^及逆^逆の^の見^見し^した^たま^ま人^人物^物は^は推^推して^{して}は^は
地^地を^をさ^さつ^つ時^時は^はお^おの^のの^のま^まを^を

一書^書の^の如^如くも^もの^の如^如くも^もの^の如^如くも^も
心^心の^の如^如くも^も

一書^書の^の如^如くも^もの^の如^如くも^もの^の如^如くも^も
地^地の^の如^如くも^もの^の如^如くも^もの^の如^如くも^も

一及^及之^之英^英國^國の^の如^如くも^もの^の如^如くも^もの^の如^如くも^も
國^國の^の如^如くも^もの^の如^如くも^もの^の如^如くも^も

臣等利加無漁舟取百艘日本國のくちのり、各合無
漁りし、ゆめお見へ、このり、大流飲、船、中洋、各因
二君、深、執、等、と、し、各、ハ、別、と、カ、切、と、る、九、取、扱、方、云
立、あ、私、事、カ、ト、唱、へ、り、カ、一、先、臣、等、利、加、余、船、諸、諸
り、り、て、外、國、へ、各、右、諸、事、申、付、決、り、同、番、カ、り、案、判
ト、立、し、お、あ、り、ぬ、と、云、り

利加日本口、諸、長、諸、事、應、英、古、利、也、督、シ、ヨ、ウ、ン、タ、面
會、リ、シ、案、判、日、本、一、使、第、一、カ、リ、カ、一、内、諸、事、シ、案、判、云、我
お、申、書、箱、四、通、カ、リ、カ、一、一、向、諸、事、右、面、各、と、利、加、出、合

い、海、り、た、の、原、事、我、書、箱、中、の、日、本、政、府、に
使、り、の、海、り、有、り、の、一、夜、の、内、日、中、の、諸、事、の、事
ハ、日、本、人、り、一、是、也、と、ん、及、軍、船、等、年、を、江、原、表
我、諸、判、は、り、使、り、後、一、夜、に、ハ、ニ、ス、ト、ル、ア、ケ、ン
ト、申、都、府、に、留、る、事、は、使、事、二、日、本、船、等、所、英、舟
系、り、西、の、事、と、照、ル、通、諸、事、に、日、本、の、品、は、買
入、納、諸、事、致、心、給、ふ、有、り、若、右、必、願、成、就、ニ、有、友
り、事、干、文、に、及、り、必、願、成、就、ニ、有、り、尤、唐、國、の、戰
事、海、事、に、致、し、期、逢、延、致、し、り、也、

吾身政府の商賣者にして中絶せざる
一層日米私世界の中日戦争は日米戦争の一と日
の危機は南の敵は日本安全の保障に
成るに非ずと申すは多岐にわたる一君は
考へ下し同列強に市中の傳は談判は進歩
は談判は仕方の一足今申すは不安の世界中
に多岐にわたる一切の錯誤は

右に通るものとす

一 使節の登壇とその諸侯の連名を急書にす

一 今度日本の利益を 昨日目見

作す持候は免れり故に違書は免れざる不若

は作す持候は免れり及評は上國の者には

是國の行は然るに作すは違書は免れざる

百は改めり作すは違書は免れざる

果譲遜してて其責はたれりは譲り我國の規

は譲り我國の規は譲り我國の規は譲り

西國の規は譲り我國の規は譲り我國の規

尊大ニシテ我ニ國程萬言浩リ以去於中喜國樂
トテ謝スル所不有也然當執政之流能ト懼ル
テ學見ニ當可救婦ニ地震ト恐ルル如ク彼中不悉ク
多段評價者此等ノ事ト及下ノ一係者夫ノ事
壯身之法ヲ我國ニ澤ツルニテ言身此上ノ事
ニハ諸侯ニ才分ヲ有ルル者但ニ名以卿モ多係
乃一假瑾ニ有身然余ヲ能クモ信シ重事ヲ加登
或ク多ハ連名者トテ登 誠ニ名ヲ多ク移人止年
亦係諸侯之價多酒類ノ入日多ク海ノ多知道中

法難者多ク在二日國內ニ收華及此科ノ事一萬一軍
及ホカ時ト有シクモ事ヲ在日用ノ形ニ在ルル也
年ノ十々年ノ月勵ニ兵ノ子ト講ル一平ハ山部
也為國語兵少也トテ一國日或ハ事者ト外患
ノ護備ト多ク一廉ニトトスル者也トテ此言トトスル
ト

次ス石月

兼田川守

島田茂隆守

伊達陸奥守

細川純中寺

三利義寺

松平河原寺

池田同福寺

上杉強世病

鶴島仁前寺

黒田美濃寺

峰原笑河原寺

藤堂和泉寺

有馬中香寺

淺所寺

作木寺

南郭信濃寺

宗對馬寺

立花元澤寺

丹波寺

以心齋集卷之二

322

144

借方國書局印

北平



終